

## 世の憎しみを予告するイエス

ヨハネ福音書15:18-27

【新改訳 2017】

- 15:18 世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。
- 15:19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。
- 15:20 しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。
- 15:21 しかし彼らは、これらのことをすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対して行います。わたしを遣わされた方を知らないからです。
- 15:22 もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今では、彼らの罪について弁解の余地はありません。
- 15:23 わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいます。
- 15:24 もしわたしが、ほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。
- 15:25 これは、『彼らはゆえもなくわたしを憎んだ』と、彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。
- 15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてくださいます。
- 15:27 あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。

### 【祈りながら考えよう】

- (1) なぜ「世はあなたがたを憎む」と言われたのですか。
- (2) 「わたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかった」(22節)とはどういう意味ですか。
- (3) 「真理の御霊」はだれについてあかしをするのですか。

#### 【解説】

(前回の要点) イエス様は、前回のところですばらしい約束を語られた。それは、「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命した」ということである。

それは何のためか。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため。その実とは救われる魂のこと、救いの実のこと。それは弟子の力によるのではなく、聖霊の力による。

だから、そのために祈るようにと勧められていた。「あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはすべて、父が与えてくださいます」私たちに、約束が与えられている。しかし、それは簡単なことではない。なぜなら、そこには迫害があり、苦難がある。今日の箇所には、迫害とか、憎むという言葉が何回も出てくる。

#### (1) 私たちが迫害される理由

主イエス・キリストは、今日の個所で、私たちが迫害される理由について教えておられる。

世があなたがたを憎むなら、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。

わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。(18-19節)

私たちが、もはやこの世に属する者たちではなく、キリストがその尊い血によって、私たちがこの世から救い出されたのである。

私たちがキリスト者の家族や、学校、職場の人々から責められ、苦しい目に遭う時、もしもそれが自分の落ち度や自分に責任がある場合には、それは迫害ではない。

しかし、キリスト者と言うだけで、またその人々がすることをキリスト者であるがゆえにしないと言うだけで、私たちが責められる場合には、それは明らかに迫害である。

私たちが迫害を受けるのは、私たちがもはやこの世のものでない何よりの証拠なのである。「わたしのために人々があなたがたをのりし、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。」(マタイ5:11) この幸いは、私たちがもはやこの世のものでなく、天に属する者とされたことの幸いである。

#### (2) しもべはその主人にまさるものではない

「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。……しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばも守ります。しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行います。」

私たちが迫害を受ける時、まず主がこの世から憎まれ、迫害されたという事実を覚えよう。主に従う者たちが受ける迫害は、主が受けたほどの迫害にはならないということです(しもべはその主人にまさるものではない)。

#### (3) 迫害する者たちのために祈ろう

この世の人々は、無知からキリスト教への偏見を持ち、キリスト者を迫害してくる。そうであれば、彼らが迫害してくる時、彼らに敵対したり、彼らを憎んだりすべきではなく、彼らのために祈るべきである。

私たちが、宣教師をはじめ多くのキリスト者の祈りと、主の憐れみによって救っていただいた。だから、私たちが迫害する相手のために、真剣に祈るべきである。

十字架上で、私たちの主はご自分を殺す人々の罪の赦しのために祈られた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」(ルカ23:34)。

この祈りをかたわらで見ていた十字架上の強盗のひとりが、主に信仰告白をして救われた(ルカ23:39-43)。

そして、主の弟子であったステパノも、主と同様に、死に際して、自分を殺す人々のために祈った(使徒7:60)。この祈りの結果、ステパノが殺される時、殺す者たちに加担していたサウロ、すなわちパウロが、後に救われたのである。迫害を通して多くの人が救われていった。私たちが迫害された時、迫害している人たちのために祈ろう。

#### (4) 信じない責任

「もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今では、彼らの罪について弁解の余地はありません。わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいます。」

もしわたしが、ほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。これは、『彼らはゆえもなくわたしを憎んだ』と、彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。」

この世がキリスト者を迫害するのはなぜか。その理由は、まことの神を知らないからである。「しかし彼らは、これらのことをすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対して行います。わたしを遣わされた方を知らないからです。」ユダヤ人たちは神の民であり、聖書をよく知っていた。熱心に祈りをささげ、断食もしていた。それなのに、主がこの世に来られた時、主を受け入れたかというそうではなく、何と十字架につけて殺した。なぜか? 神を知らなかったからである。彼らは神の民であり、神の律法が与えられていたが、本当の意味で神を知っていなかった。

もしイエス様が来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかった。しかし、彼らはイエス様が語られたことを聞いた。イエス様は、ご自身が父なる神から遣わされた者であり、父なる神と一つであるということ、また、ご自分を見た者は父を見たのと同じであるということをお話された。

また、ご自分が十字架にかかって身代わりの死を遂げられることについても話された。「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」(ヨハネ3:14-15)

それだけではない。「もしわたしが、ほかのだれも行ったことのないわざを、彼らの間で行わなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。けれども今や、彼らはそのわざを見て、そのうえでわたしとわたしの父を憎みました。」

イエス様が話されたことを信じられないという人のために、彼らの間でわざを行われた。それは、ほかのだれも行ったことのないわざである。このヨハネの福音書の中には7つのしるしが記されている。イエスがメシヤであることの証拠としての奇跡である。

①カナの婚礼では水をぶどう酒に変える(2:1-12)。②王室の役人の息子の病気を癒される(4:43-54)。③ベテスダと呼ばれる池では38年間も病気で伏せていた人を癒される(5:1-18)。④5つのパンと2匹の魚で、男だけで5千人の空腹を満たされる(6:1-15)。⑤舟を漕ぎあぐねていた弟子たちを助けるために、ガリラヤ湖の上を歩いて近づかれる(6:16-21)。⑥生まれつきの盲人の目も癒される(9:1-41)。⑦死んで四日も経っていたラザロを生き返らせる(11:1-45)。

どれ一つとっても人間には不可能なわざである。病人をいやし、死んだ人を生き返らせ、実に驚くべき奇蹟の業をなさった。主はこれをご自分が神から遣わされた者、メシヤであることの証拠として行われた。

そして、ユダヤ人たちはそれを見た。もし、イエス様が彼らの間でそれを行わなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。しかし、彼らはそのわざを見て、そのうえで主イエスと父なる神を憎んだ。だから、もはや罪責を負わなければならない。

#### (5) 御霊の神が、私たちが証しすることを助けてくださる

「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてくださいます。あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。」

私たちがキリスト者はどんな状況においても、証しをする責任がある。しかし、その時、助け主であられる御霊の神が、私たちが助け、私たちが証しすることができるようにしてくださいませ。

私たちのうちに住んでくださり、私たちに語るべき言葉を与えてくださる。だから、恐れる必要がない。

